

# 知的障害のある方への合理的配慮

## 知的障害とは

読み書き計算などを行う際に支障があり、日常生活に制限がある状態をいいます。就職し、自立している方も多くいますが、苦手な分野については、サポートを必要とする方もいます。少し話ただけでは障害があると感じさせない方でも、自分の置かれている状況や、抽象的な表現を理解するのが苦手な場合もあります。苦手なことが人によってそれぞれ違いますので、その方に合わせた対応が必要です。



### ちょこっとコラム

#### 知的障害のある方とコミュニケーションをとるときのポイント

##### 1 ゆっくりはっきり簡潔に

抽象的な表現でなく、できるだけ短く分かりやすい表現で説明することが重要です。



##### 2 穏やかな口調で話しかける

とがめるように話しかけたり、強い聞き方をされると、おびえてしまったり、話ができなくなってしまう方もいます。業務上必要な指導をする場合も、言い方や口調に気を付け、必要であれば何度も繰り返して伝えるようにしましょう。

## 知的障害のある方への 合理的配慮の事例

### 本人の習熟度に応じて業務量などを調整

大きなストレスや疲労を感じることがないように、最初は業務量を少なくして、習熟度を見て業務量や内容を変更していくことが必要です。

#### こんなことをやっています！

- 最初は業務量を少なくして、本人の習熟度などを確認しながら徐々に増やしている。
- 初めは簡易な業務に配置し、本人の様子を見ながら、徐々に複雑な業務をまかせるようにしている。
- あらかじめ定量的な目標を定めておき、目標を達成できれば業務量を

増やすようにしている。

●初めは簡易な業務に配置し、本人の様子を見ながら、徐々に複雑な業務をまかせるようにしている。

### 図などを活用した業務マニュアルを作成

言葉による指示より視覚的指示の方が理解しやすい方もいます。図などを活用したマニュアルなどを作って、業務内容を明確に伝えることが必要です。

#### こんなことをやっています！

- 作業手順や使用する器具、就業場所などについて、図や写真などを使って細かく説明した業務マニュアルを作成した。
- 指示は口頭だけではなく、紙に書いて渡している。
- 説明する際、内容をメモにとってもらうことにより理解促進を図っている。



### 作業手順を分かりやすく提示

作業のプロセスを分割、整理して、できるだけ具体的かつ簡潔に伝えるなどの配慮が必要です。

#### こんなことをやっています！

- 1日の業務の流れを、「今日のスケジュール」として目につくところに掲示している。
- マンツーマンで見本を見せ、本人の理解度を確認しながら業務指示を行っている。
- 一つの指示を出し、それが終わっ
- たことを確認してから次の指示を出すなど、作業指示を一つずつ行うようにしている。
- 業務の急な変更は避けるようにしている。
- 業務が確実にできているか、チェックシートを用いて確認している。

